



いわて生活協同組合

# 社会活動・ 環境活動報告書

2017年度の取り組み

## Contents

第1章 復興支援活動

第2章 食の取り組み

第3章 社会貢献活動

第4章 組合員の活動

第5章 くらしを支える事業

第6章 環境活動

# Contents — 目次 —

## 〈 社会活動報告 〉

目次 協同組合について	1
ごあいさつ	2
いわて生協の成り立ち・事業概要	3

### 第1章 復興支援活動

東日本大震災、台風10号被災地支援	5
-------------------	---

### 第2章 食の取り組み

地産地消、食の安全への取り組み	7
顔と暮らしみえる「産直」運動	9

### 第3章 社会貢献活動

だれもが安心して暮らせる地域・社会に	11
--------------------	----

### 第4章 組合員の活動

子育て支援、福祉活動、食・平和を守る取り組み	13
------------------------	----

### 第5章 暮らしを支える事業

店舗事業、共同購入事業	15
葬祭事業、共済事業、介護・福祉事業	17

## 〈 環境活動報告 〉

### 第6章 環境活動

環境理念 環境方針	19
CO <sub>2</sub> 排出量削減の取り組み	20
原子力発電に依存しない事業	21
廃棄物の削減・リサイクルの取り組み	22
組合員活動の取り組み	23
環境に配慮した商品の利用普及	24
環境負荷とリサイクルフロー	25
環境活動のあゆみ	26

## 協同組合について

### 【定義】協同組合とは

協同組合とは、人びとの自治的な協同組織であり、人びとが共通の経済的・社会的・文化的なニーズ（要望）と願いを実現するために自主的に手をつなぎ、事業体を共同で所有し、民主的な管理運営を行うものです。

### 【価値】協同組合にとって大切なものは

協同組合は、自分たちの力と責任で、民主的に、平等で公平に、そして連帯してものごとをすすめていくことを基本理念とします。また先駆者たちの伝統にしたがって、協同組合の組合員は、倫理的な価値観として、誠実でつつみ隠さず、社会的責任と他者への思いやりを持つことを信条とします。

この協同組合の「定義・価値」は、1995年の国際協同組合同盟（ICA）100周年記念大会で、21世紀にむけて、世界の協同組合の指針として採択され、現在もその基礎となっているものです。  
※定義と価値は、JC総研発行「新協同組合とは（再訂版）」より引用。

## 編集方針

いわて生協では、2007年から「社会活動・環境活動報告書」の発行を始めました。報告にあたっては、いわて生協の基本的な考えにそってすすめている事業・活動の内容を、その進捗状況とともに掲載しています。

現在、いわて生協がすすめている「2020年ビジョン」で掲げた「助けあい、支えあい、ともにつくる暮らしの安心」の実現に向けて、どんな取り組みを行っているのか、活動の一部ではありますがみなさまにお伝えできれば幸いです。

### ■ 報告対象期間

2017年度（2017年3月21日～2018年3月20日）の内容です。一部、2018年6月までの活動や将来の目標も報告しています。

### ■ 発行 2018年6月

### ■ Webアドレス

<http://www.iwate.coop/about/csr/>  
本報告書のほか過去の報告書もホームページに掲載、ダウンロードできます。

### ■ お問い合わせ先

#### いわて生活協同組合 広報室

〒020-0690 岩手県滝沢市土沢220番地3  
TEL.019-603-8280 FAX.019-687-1117

# 「助けあい、支えあい、 ともにつくる暮らしの安心」をめざして

いわて生協では、2017年度は「第8次中期計画（2016～18年度）」の2年目の年として、全33市町村との高齢者見守り協定の締結をはじめ、共同購入・共済事業のさらなる拡大、コープ一関コルザのリニューアルなど、計画にそって暮らしの願いを着実に実現してまいりました。特に、環境の取り組みでは、いわて生協の電力使用量の111%相当を再生可能エネルギーで確保し、原発事故後進めてきた「原発に依存しない事業」を実現することができました。2018年度は、この取り組みをさらにすすめ、電気小売事業「COCOENE」をスタートしてまいります。

さて、未曾有の被害をもたらした東日本大震災から7年が経過しました。沿岸被災地の復興は着実にすすんできていますが、宅地整備の遅れから、7年経った今も6千人が不便な仮設住宅で暮らし、なりわいの再生や街づくりはこれからが正念場です。心のケアが必要な子どもたちも年々増えており、「心の復興」はむしろこれからといえます。また、台風10号被害からの復興もまだこれからです。

こうした中で、いわて生協では、「買い物支援」「なりわいづくり支援」「笑顔と元気を届ける活動」「震災を風化させない活動」の4つの柱にそって、被災地・被災者に寄り添った支援活動を継続してまいりました。こうした支援活動を続けることができたのは、組合員の協力の力と、地域のみなさまや全国の生協・団体の皆様からのご支援・ご協力があったからこそであり、あらためて感謝と御礼を申し上げます。

今、私たちの暮らしや社会を取り巻く状況はますますきびしさを増しています。私たちの平和の願いとは裏腹に、この5年間、集団的自衛権行使の閣議決定に始まり、安保関連法の制定など、「戦争をする国づくり」が着々とすすめられてきました。そしてその総仕上げとして、平和憲法・9条を変える動きが具体化してきています。一方で、格差と貧困はさらに広がり、社会保障の改悪やTPP11の合意、原発の再稼働など、多くの国民の反対の声を無視した政策が数の力で次々と推し進められています。

世界では、環境問題の深刻化や紛争・テロの拡大、格差と貧困のひろがりなどの問題を解決しようと、国連で「持続可能な開発目標（SDGs）」を定めました。その達成に向けて各国の政府をはじめ、協同組合やNGOなど多くの組織が、エネルギーや健康・福祉、平和な社会づくりなどに積極的に取り組み始めています。私たちいわて生協も、こうした世界の取り組みと呼応しながら、「だれもが安心して暮らせる社会・地域づくり」をさらにすすめてまいります。

みなさまにはいっそうのご支援、ご協力をお願い申し上げます。



いわて生活協同組合  
理事長  
飯塚 明彦

# 合併契約書調印式

みんなの力でいわて生協をつくりあげましょう

岩手学校生協宮古地域・岩手県民生協・北上市民生協  
釜石市民生協・けせん生協・盛岡市民生協

1989年10月1日



## いわて生協の成り立ち・事業概要

いわて生協が誕生して27年—  
組合員は24万6千人を超え県内世帯の47%と、その輪は着実に広がっています。

### 「盛岡安く牛乳を飲む会」から「生協」へ

1969年一方的な牛乳の値上げに反対し、盛岡市上田地区のお母さんたちが「盛岡安く牛乳を飲む会」を設立し、牛乳の共同購入を始めました。400世帯1千本から始まった牛乳の共同購入は、お母さんたちの仲間づくりにより急速に広がり、卵の共同購入、サリチル酸の入らない清酒を直買する運動にも発展しました。一方でコープ商品や生協運動の学習も積み重ね、同年お母さんたちによる地域生協「盛岡市民生協」が誕生しました。

その後、釜石市や北上市、大船渡市にもお母さんたちによる地域生協がつくられていきました。

### 1990年3月「いわて生協」が誕生

県内5つの地域生協の合併と、岩手県学校生協宮古地域組合員の合流で、1990年3月21日「いわて生協」が誕生しました。

1. ますますきびしくなる組合員のくらしを守り、より豊かなくらしを実現していく。
  2. そのためにも競争に負けない力強い生協をつくっていく。
  3. 停滞する岩手の経済や、過疎化・高齢化がすすむ地域社会に役立つ生協をつくっていく。
- この3つをめざしてスタートしました。

### 数字で見るあゆみ

■ 組合員数	■ 出資金	■ 供給高
1990年度 (誕生時) 8万8,166人	1990年度 (誕生時) 13.1億円	1990年度 (誕生時) 184.1億円
2000年度 13万7,567人	2000年度 36.4億円	2000年度 372.9億円
2005年度 17万9,555人	2005年度 56.7億円	2005年度 363.9億円
2010年度 19万9,279人	2010年度 69.4億円	2010年度 352.8億円
2015年度 23万3,208人	2015年度 82.5億円	2015年度 386.2億円
2017年度 24万6,198人	2017年度 89.1億円	2017年度 412.5億円

**2020年ビジョン**  
～私たちのありたい姿～  
**「助けあい、支えあい**  
**ともにつくる**  
**くらしの安心」**

- 1 私たちは、ふだんのくらしにいつそう役立つ事業を広げ、生涯をととして組合員のくらしに役立つ生協をめざします。
- 2 私たちは、だれもが安心して暮らせる社会と、人と人が支えあいつながる地域づくりをめざし、「明るく!元気に!楽しく!感動する活動」をすすめます。
- 3 私たちは、協同のすばらしさに確信を持つ常勤者をつくり、地域から信頼され、評価される生協をめざします。また、組合員のくらしの願いにこたえるために、健全経営を維持発展させます。

## 2017年度の事業・決算概要

2017年度は、「第8次中期計画(2016年～2018年度)」の2年目として、共同購入・共済事業のさらなる拡大、コープ関コルザリニューアルなどを着実にすすめました。供給高は予算を達成し、いわて生協として初めて400億円を超えました。最終的な当期末処分剰余金は予算を大幅に上回る3億7千万円を確保し、組合員への出資配当を実現しました。

## 事業概要

店舗事業(15店舗)、共同購入事業(9共同購入センター)、共済事業(1共済センター)、葬祭事業(9ホール)、介護・福祉事業(1事業所)、住まいと暮らしのサービス事業

関連会社 / (株) コープトラベルいわて  
(株) コープ東北保険センターいわて支店

### いわて生協のプロフィール ※すべて2017年度末(2018年3月20日)の数字です。

■ 組合員数 <b>24万6,198人</b>	■ 世帯加入率 <b>47%</b>	■ 出資金 <b>89億1,283万円</b>	■ 供給高 <b>412億4,729万円</b>
■ 共同購入利用人数 <b>7万2,248人</b>	■ 常勤者(職員)数 <b>2,160人</b>		

◆ 店舗

- ・ベルフ八幡平
- ・ベルフ山岸
- ・コープチェリオ
- ・ベルフ牧野林
- ・ベルフ仙北
- ・コープアテルイ
- ・コープ高松
- ・マリコブドラ
- ・コープ関コルザ
- ・ベルフまつその
- ・コープ西ヶ丘
- ・コープ花巻あうる
- ・ベルフ青山
- ・ベルフ西町
- ・ベルフ北上 (2018年4月出店)

■ 共同購入センター

- ・久慈センター
- ・盛岡南センター
- ・宮古センター
- ・にのへセンター
- ・花北センター
- ・釜石センター
- ・盛岡北センター
- ・県南センター
- ・けせんセンター

● 葬祭会館

- ・セリオホール牧野林
- ・セリオホールみやこ
- ・セリオホールみたけ
- ・セリオホール磯鶏
- ・セリオホール緑が丘
- ・セリオホール釜石
- ・セリオホール中野
- ・セリオホール岩泉
- ・セリオホール仙北

### 事業所と世帯加入率

事業所	世帯加入率
◆ 店舗	60%以上
■ 共同購入センター	50%以上
● 葬祭会館	40%以上
	30%以上
	20%以上
	10%以上





わかめ詰め放題が大人気（コープアトレイ復興支援・地産地消フェスタ）。



「ひな祭り、うまくてきたよ」と笑顔（陸前高田市でのふれあいサロン）。

## 第1章

# 復興支援活動

「がんばろう！岩手 築こう未来」

7年目の東日本大震災支援活動は、変化する被災地の要望に寄り添った取り組みを継続しました。また台風10号などへの支援にも、組合員や全国の生協と協同して取り組みました。

### 東日本大震災支援活動

「買い物支援」「なりわいづくり支援」「笑顔と元気を届ける活動」「震災を風化させない活動」の4つの柱にそって取り組みました。

### 毎日のくらしを支える買い物支援 7年間で47万人利用

#### 移動店舗と無料お買い物バス 7万5千人利用

買い物の場がなく、不便な被災地のくらしを支えようと、移動店舗「にこちゃん号」は、組合員の募金と全国の生協の支援で2012年から開始。現在も4台が宮古市、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市の仮設団地・災害公営住宅79ヶ所を運行しています。宮古市、山田町から宮古店舗へ運行する「無料お買い物バス」と合わせ、2017年度は7万5千人（前年-336人、99%）が利用しました。7年間ではのべ47万人が利用し、「生協はずっと来てくれるので助かる」との声が寄せられています。

#### 共同購入「復興支援サービス」 7千人利用

移動店舗などで対応できない地域への買い物支援として、共同購入では、個人宅配手数料を減免する支援を継続しました。沿岸被災地（内陸避難の方含む）対象の「復興支援サービス」と、台風10号被災地で罹災証明書をお持ちの方が対象の「新・被災者サポート値引き」を継続。2つの制度の登録人数は7,033人（前年+271人、104%）となりました。

### 被災地メーカー・生産者を商品利用で応援 7年間で25億円の利用

#### 事業での商品利用おすすめ 4億8千万円

被災地の生業・仕事づくりを応援しようと、被災地のメーカー・生産者の商品を店舗・共同購入で積極的におすすめしました。17年度の利用は4億8千万円（前年+2千万円、104%）、この7年間では25億円となりました。被災地のグループなどの手づくり品販売も継続し、17年度は326万円（前年-113万円、74%）、7年間では4千万円の利用となりました。2013年度以降、利用が減っています。

#### 5店舗で 復興支援・地産地消フェスタ

沿岸地域や岩手の生産者・メーカーを応援しようと5店舗で「復興支援・地産地消フェスタ」、マリンコープドラで「復興応援まつり」を開催。沿岸地域を含むのべ282の業者・団体の出店、9万4千人（前年-2千人、98%）の来場となり、沿岸の業者からは「利用してもらうことが励みになる」と喜ばれました。



### 多くのボランティアで笑顔と元気を届ける活動 7年間で3万2千人参加

#### 「ふれあいサロン」に3千人参加

「お茶を飲みながらほっとしてほしい」との思いから、震災直後の2011年6月から開催した「ふれあいサロン」。17年度は宮古市、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市で398回開催し、3,017人が参加しました。7年間では3,327回開催し2万8千人が参加しました。仮設住宅の閉鎖で開催・参加は減っていますが、楽しみにしている方も多く、今後も継続します。「バスボランティア」は宮古市、大槌町、陸前高田市での活動を継続し、9回に276人が参加しました。

#### 「広がる食の支援」に950人参加

「ひとりになって料理をする気になれない」などの声に、食を大切にしている生協としてなにかできないかとの思いから、2013年度から「3行レシピ集」を発行。また、「ふれあいサロン」での昼食会や「生協料理サロン」（味の素グループ「赤いエプロンプロジェクト」共催含む）を開催し、956人が参加。「簡単だからまたつくってみたい」と喜ばれています。

### これからも東日本大震災を忘れない 7年間で2億6千万円の募金

#### 被災地の情報発信を継続

岩手県内でも震災の風化がすすむ中、被災地の現状を知らせようと、情報紙などでの情報発信を継続しました。また、組合員の話し合いの場でも支援活動について話し合い「商品購入などできる支援をしたい」との声が寄せられました。

#### 復興支援募金1,118万円に

支援活動を支える「復興支援募金」は、店舗「お買い物割引券募金」や共同購入「利用登録募金」の参加が増え、3年連続で1千万円を超えました。



#### 2017年度復興支援募金と活用状況

募金 助成金	組合員支援募金	1,118万2,406円
	全国の生協からの募金	1,640万5,633円
	助成金	80万円
	計	2,838万8,039円
使途	ふれあいサロン・昼食会	932万9,938円
	リフレッシュツアー・復興応援ツアー	236万3,299円
	バスボランティア・年末昼食会	101万5,981円
	グループ活動補助	138万4,681円
	被災地支援活動助成金	307万8,240円
	その他（ママと子ども支援など）	152万8,316円
	計	3,111万6,813円
収支	不足分は復興支援活動基金を活用	▲272万8,774円

#### 台風10号支援活動

#### 岩泉町生活橋復旧支援募金 100万円

台風10号で被害を受けた、岩泉町内の生活橋の復旧を支援しようと、組合員に呼びかけて支援募金に取り組み、岩泉町に贈呈しました。



#### 年末昼食会を岩泉町8ヶ所で開催

温かいものを食べてボランティア、住民どうしで交流しようと、岩泉町の仮設住宅や災害公営住宅で「年末昼食会」を開催し、47人が参加。「みんなで食べるとおいしい」と喜ばれました。また岩泉町で被災者支援を行う団体に、お菓子やサロンキットの提供を行いました。

#### 九州北部大雨災害支援

組合員による支援募金は、277万円が寄せられました。全国の生協による募金は2億6千万円となり、日本生協連を通じて福岡県・大分県に贈呈しました。



「豆の味がして美味しい」と人気の岩手県産大豆を使ったアイコーブ商品。



「アイコーブごはんが美味しいいわての五穀」は、組合員が開発に参加。「私たちの試食・話し合いが生かされた商品です！」

## 第2章

# 食の取り組み

岩手の豊かな生産物を地元で消費する「地産地消」を広げようと、県内企業や生産者、組合員と一っしょに取り組んでいます。また、安全な商品をお届けするため、全国・東北の生協と協力して取り組んでいます。

## アイコーブ商品・アイスタイル商品

### 地産地消をめざすオリジナルブランド

アイコーブ・アイスタイルは、いわて生協が開発・供給しているオリジナルブランドです。できるだけ岩手県産・国産原料を使用し、岩手県内メーカーとの共同開発で、岩手県内の工場で製造。開発には、組合員も参加しています。

東日本大震災以降は特に、「地場産品の利用を広げることで岩手を元気にしよう」と、利用普及に積極的に取り組んできました。

### 2017年度「アイコーブ商品」「アイスタイル商品」の実績

- 商品数 **140品目**
- 供給高 **14億5,213万円** (前年+1,643万円、101%)
- 製造委託メーカー **55社** (県外メーカー含む)

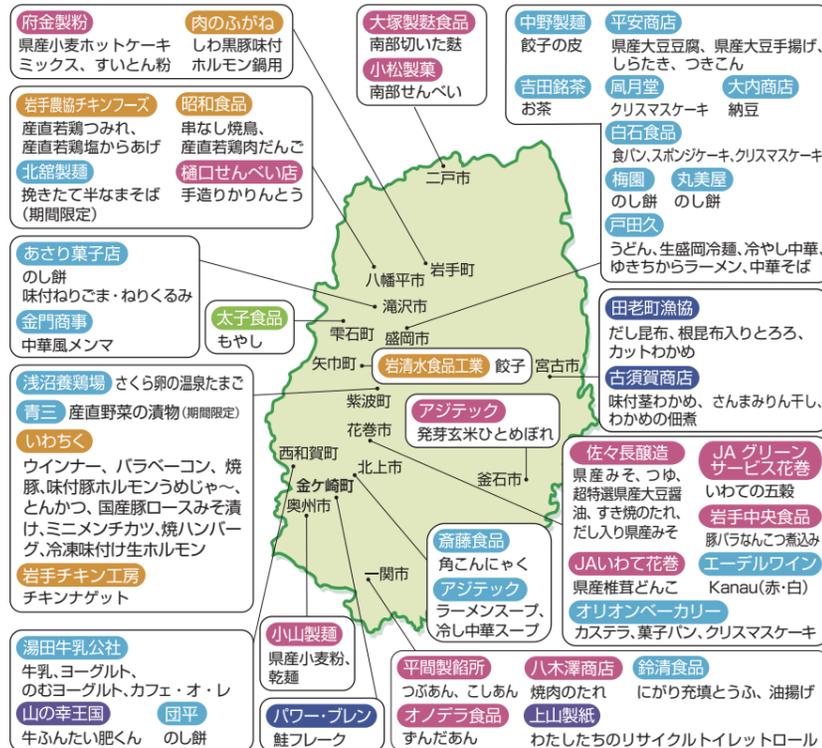
### 開発のコンセプト



できるだけ岩手県産の原料を使用し、岩手県内品質の商品です。開発には組合員も参加し、味や使い勝手などを確かめています。



食品添加物など、いわて生協の品質管理基準を満たしながら、より求めやすい価格を重視した商品です。



## アイコーブ商品5品目を開発・改善

2017年度は、アイコーブ商品3品目を開発し、2品目を改善しました。開発・改善には組合員が参加し、よりよい商品にしようと意見を出し合いました。

### 開発 アイコーブごはんが美味しい いわての五穀

岩手県産の5種類の雑穀をブレンド。水沢コープの組合員が開発に参加し、白米のおいしさをいかに配合比率を決定。JAグリーンサービス花巻（花巻市）が製造。



## 商品のよさと利用を広げる組合員の活動

こ〜ぶ委員会では、選んだ商品について学習し、そのよさを伝える「これ、いいね商品」の活動に取り組んでいます。2017年度は、主体的な学習や食べ比べ、産地・工場見学など工夫して取り組みました。またこうした学習をいかし、「秋のコープのつどい」や店舗で商品の紹介や試食おすすめに取り組めました。



## 地産地消の取り組み

### 復興支援・地産地消フェスタ 5会場に8万7千人

「岩手のものを利用して岩手を元気に」と2005年から開催している地産地消フェスタ。震災後は「復興支援」も掲げて開催しています。2017年度も各振興局の協力・参加をいただき、ベルフ牧野林、ベルフ八幡平、コープアテルイ、コープ関コルザ、コープ花巻あうるの5店舗で開催しました。のべ237の業者・団体が出店し、計8万7千人（前年+3千人、104%）が来場。地元や沿岸被災地の特産品の利用につながりました。



### 地域の特産品を広げる取り組み

岩手の豊富な生産物や商品の利用を広げようと、幅を広げた地産地消の取り組みとして、行政や生産者団体などの協力をいただき、店舗や共同購入で県内の特産品をご案内しています。2017年度は「みやこようまいもの市」（2008年開始）を共同購入で年2回特集したほか、「にしわが山の市場」（2009年開始）をベルフ牧野林で2回開催。また、県南地方の障がい者施設で構成する「あべじゃネット」による「あべじゃネットフェア」（2009年開始）をコープアテルイで6回開催しました。



## 安全な商品をお届けするための取り組み

### 工場点検や商品検査の取り組み

食の安全を確保し、食品事故を未然に防止しようと取り組んでいます。2017年度はアイコーブ商品製造委託メーカーの工場点検（61工場、前年+2工場）、商品検査室での商品微生物検査（2,905件、前年-159件）を行いました。またコープ東北と連携し、重大商品事故につながるお申し出への監視対応などに取り組めました。

### 放射性物質自主検査

原発事故後、いわて生協では国や県に放射性物質の検査・対策の強化を求める一方で、行政が検査しない産直品・アイコーブ商品、また行政検査の補完

として市場流通品の検査に取り組んでいます。

2017年度はアイコーブ商品・アイスタイル商品、産直品、市場流通品の計177品目（前年+6品目）を検査し、いずれも検出限界値（10Bq/kg）未満でした。

### 日本生協連「食事中的放射性物質摂取量調査」を7年継続

原発事故後、日本生活協同組合連合会が継続して実施している食事調査は、2017年度は全国18都県234世帯（いわて生協10世帯）が協力しました。その結果、すべてのサンプルで放射性セシウムは検出限界値（1Bq/kg）未満でした。



産直牛乳生産者、大畑さんご一家（金ケ崎町）



毎年、組合員から産直牛乳生産者へ搾乳に使うタオルをプレゼント。

## 顔とくらしの見える「産直」

### 組合員と生産者が交流し、岩手の農林漁業を守る運動

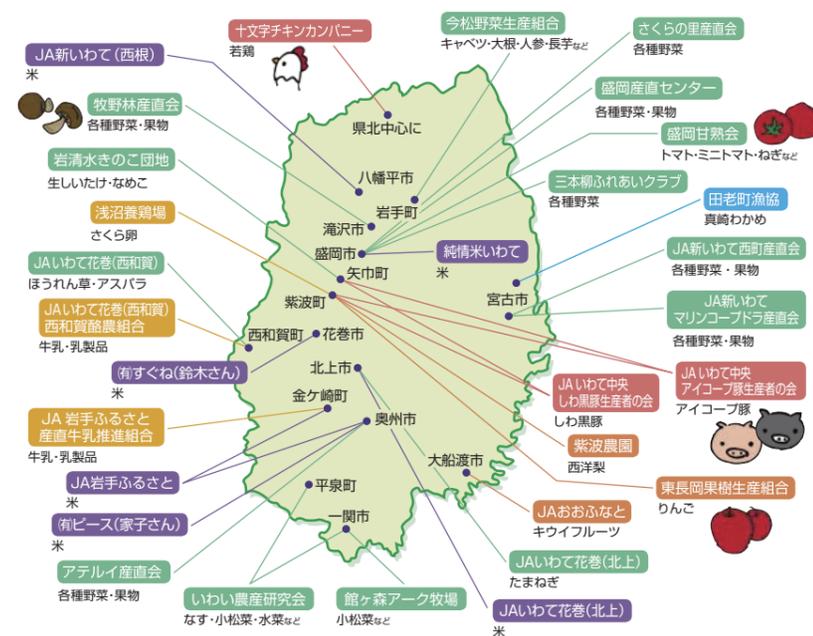
いわて生協の産直は、安全で新鮮、良質な農畜産物を求める組合員と、農林漁業の発展や健全な生産方法をめざす生産者が交流し、よりよい農畜産物を作りながら、岩手の食料と農業を守っていく運動です。

### 2017年度「産直」の実績

- 供給高  
**25億5,279万円**（前年+ 3,584 万円、101%、供給構成比 13%）
- 産直提携団体  
**30団体**
- 農産産直コーナー設置店舗  
**9店舗**

### 県内30産地と産直提携

2018年4月現在



牧野林産直会生産者と岩手郡コープの組合員が畑で交流。

### いわて生協の産直三原則

- ①産地と生産者が明確であること
- ②栽培、飼育方法が明確であること
- ③組合員と生産者が交流できること

### いわて生協の産直基準

- ①組合員の多様な参加を強め、組合員の願いを商品と事業に反映します。
  - ②岩手の農林畜産産業を守り、その発展に貢献します。
  - ③組合員と生産者が「対等」「共同」「公平」の立場で、課題へ取り組みます。
  - ④産地・生産者、生産・流通方法を明確にします。
  - ⑤記録・点検・検査を行い、より確かな産直商品を届け続けます。
  - ⑥持続可能な生産とともに、事業の環境負荷低減にも取り組みます。
- ※2018年7月に改定し、新しい基準になります。

### 産直野菜農薬基準

- ◆排除農薬／使用禁止する11農薬  
NAC、ジメトエート、2.4PA、MEP、マンネブ、DEP、EPN、ジラム、チウラム、マラソン、クロルピクリン
- ◆排除目標農薬／排除に向けて計画的に努力する6農薬  
キャプタン、ダイアジノン、ペノミル、バラコート、リニュロン、アトラジン

### 「産直収穫祭」を店舗・共同購入で開催

産直品のよさと利用を広げる「産直収穫祭」を、店舗・共同購入で毎年開催しています。2017年度は店舗・共同購入で年3回実施。常勤者と組合員・生産者がいっしょにおすすめ活動に取り組みました。しかし天候不良による出荷減の影響で、利用は前年比96.7%と減少しました。



盛岡北コープ組合員とさくらの里産直会生産者がいっしょにおすすめ活動。

### 組合員と生産者の交流活動を多彩に

#### 産直生協牛乳ふるさと訪問

産直牛乳の産地を組合員家族がたずねる「産直生協牛乳ふるさと訪問」を西和賀町、金ケ崎町の2会場で開催し、81人（前年+5人）が参加。牛舎で子牛にミルクをあげたり、生産者とお昼をご一緒しながら生産者の苦労や思いを知り、交流を深めました。



「すごいねー」牛のお腹に聴診器をあてる組合員親子。

#### 生産者の思いを知る産直米交流会

花巻市、奥州市江刺区の2会場で3回開催（前年-3回）。のべ77人が生産者の指導のもと、田植えや田んぼの生き物観察、稲刈りを体験しました。参加者から「生産者の大変さがわかった」「お米を大事に食べたい」との声が出されました。



田植えや稲刈りを体験し、米づくりの大変さを知りました。

### 組合員の代表が栽培方法などを点検する「公開安全確認会」「業務確認会」

産直品の栽培・飼育方法などの約束事が守られていることを、組合員も参加して確認する「公開安全確認会」を2003年度から毎年開催。2017年度は29産地に組合員144人（前年比100%）が参加して開催し、生産者の努力への理解が広がりました。

「業務確認会」は、生協が産直品のよさをきちんと伝えて供給しているかを組合員・生産者が確認する取り組みとして2004年度から行っています。2017年度は店舗など8事業所を30人（前年比100%）が確認しました。



盛岡甘熟会の公開安全確認会に、盛南コープの組合員が参加。

### 生産者・組合員・常勤者が交流し話し合う「産直事業活動交流会」

産直事業のさらなる発展をめざし、生産者・組合員・常勤者が一同に会し、次年度の計画を話し合う「産直事業活動交流会」。2003年度から毎年開催しています。2017年度は15回目の記念大会として開催し、235人が参加。若い生産者の事例報告が大変好評でした。

### 日本の農林漁業、食の安全・食料を守る取り組み

いわて生協は、日本の農林漁業、食の安全・食料を守る運動に取り組んでいます。「いわて食・農ネット」や県内の諸団体といっしょに、TPP11などの協定の問題点の学習、街頭宣伝行動に取り組みました。また、「TPP交渉差止・違憲訴訟の会」にも参加・協力しています。

2017年度は、種子法の廃止に反対し、日本の種子を守る新しい制度の創設をめざす「日本の種子を守る会」に参加しました。



首長との懇談会を毎年開催しています。(久慈市長との懇談会)



被災地で活動する13団体に助成金を贈呈しました。

### 第3章

## 社会貢献活動

「だれもが安心して暮らせる社会・地域」をめざして、行政や諸団体のみなさんといっしょに取り組みをすすめています。

### 高齢者見守り協定は全33市町村と締結

共同購入・個人宅配、夕食宅配サービスでは、利用される高齢者を対象に、配達時気になることや異変があった場合、自治体が指定する窓口へ連絡する「見守り活動」を2013年度から行っています。2017年6月、県内全33市町村との「高齢者見守り協定」の締結が完了しました。異変への対応事例は2017年度18件(前年+4件)、この5年間では83件となり、組合員ご家族や行政から感謝の声をいただいています。



平泉町との高齢者見守り協定締結式。

### 首長懇談会15市町で開催

だれもが安心して暮らせる地域づくりをめざして、2017年度も15市町で首長懇談会を開催しました。「地球温暖化防止、限りある資源を大切に」する取り組み」を主なテーマに懇談しました。

また、岩手県生協連主催の「県議会各会派との懇談会」(2会派)にも参加しました。

#### 首長懇談会開催自治体(開催順)

- ・矢巾町
- ・奥州市
- ・滝沢市
- ・住田町
- ・久慈市
- ・一関市
- ・大船渡市
- ・宮古市
- ・軽米町
- ・陸前高田市
- ・花巻市
- ・二戸市
- ・八幡平市
- ・盛岡市
- ・北上市

### 「コープフードバンク」8団体に2トンの食品提供

東北の生協が運営する「コープフードバンク」では、お取引企業から余剰食品などの無償提供を受け、社会福祉に寄与する団体・組織などへ無償で提供する活動を行っています。こうした団体への支援を通して生活困窮者などへの支援、また食品の無駄をなくすことにもつながります。

2017年度は、いわて生協を通して、県内8団体に2.3トンの食品等を提供しました。活動を支えるサポーターは個人会員227人、法人会員3社に増えました(コープ東北全体では303団体に提供。サポーターは797人、121社)。また2018年4月、新たに2団体と協定を締結し、提供先は10団体となりました。



2018年4月、奥州市社協と協定を締結。

#### フードバンク協定締結団体(締結順)

- ・宮古市社会福祉協議会
- ・大船渡市社会福祉協議会
- ・NPO法人くらしのサポーターズ
- ・岩手保護院
- ・花巻市社会福祉協議会
- ・北上市社会福祉協議会
- ・釜石市社会福祉協議会
- ・一関市社会福祉協議会
- ・奥州市社会福祉協議会
- ・NPO法人インクルいわて

#### 法人会員(県内)

- ・(株)事務機商事
- ・丸庄クリーニング(株)
- ・メフレ(株)

### 被災地支援活動助成金 13団体に308万円

多面的な被災地支援活動を実現するため、被災地で支援活動に取り組む団体・NPOを支援する助成金制度を2016年度設立しました。2017年度は審査の上で13団体に計307万8,240円を助成しました。

#### 被災地支援活動助成金贈呈団体(活動地域)

- ・NPO法人 クチェカ(岩泉町)
- ・宮古読み聞かせの会 おどっつあんS(宮古市)
- ・ふじばたけ・ふれ愛サロン(宮古市)
- ・もっちいと森の仲間たち(陸前高田市、岩泉町)
- ・おおつちパラエティショ-実行委員会(大槌町)
- ・一般社団法人 Tsubomi(大槌町)
- ・一般社団法人 三陸駒舎(釜石市、周辺沿岸)
- ・Home of Wisdom(陸前高田市、大船渡市、住田町)
- ・子育てサークル きっぴんきっず(大船渡市)
- ・碓石地区復興まちづくり協議会(大船渡市)
- ・一般社団法人 ちむ麻の葉(陸前高田市)
- ・シンセサイザー演奏を聴く会(沿岸地域)
- ・CAPリアス(沿岸地域)

### 自治体などの委員会で提言

住みよい地域づくりをめざし、組合員理事を中心に自治体などの委員会に委員として参加し、生活者の視点で提言を行っています。

#### 2017年度自治体・関係団体への主な委員出席

岩手県・ 関係団体	岩手県水産審議会
	岩手県中山間地域等直接支払制度推進委員会
	岩手県食の安全安心委員会
	岩手県食育推進ネットワーク会議
	岩手県企業局経営評価委員会
	岩手県共同募金会分配委員会
市町・ 関係団体	岩手県万引防止対策協議会
	盛岡市上下水道事業経営審議会
	盛岡市ごみ減量資源再利用推進会議
	盛岡市玉山地域農業再生協議会
	滝沢市総合計画審議会
	滝沢市上下水道事業経営審議会
	宮古市地産地消推進計画策定委員会
	宮古市廃棄物減量等推進審議会
	北上市農業再生協議会
	雫石町地域農業再生協議会
	公益財団法人盛岡市文化振興事業団
	岩手県共同募金会宮古市共同募金委員会
宮古市女性会議	
宮古市明るい選挙推進協議会幹事	

### 障がい者のくらしや活動を応援

視覚障がいのある組合員の買い物支援として、共同購入事業では、カタログを読み上げたCDをお届けする「リーディングサービス」を実施。現在43人が利用しています。

障がい者のスポーツ活動を応援しようと、2015年度から「スペシャルオリンピックス日本・岩手」のオフィシャルサポーターに、また2017年度新たに設立された「岩手県障がい者スポーツ協会」の賛助会員として協力しました。また、多様な人々がともに働き続けられる生協をめざし、障がい者雇用を積極的にすすめています。2017年度は新たに15人を採用し、40人の雇用(前年+10人)となりました。



コープアテルイ(奥州市)では、県南の福祉作業所でつくる「あべじネット」のフェアを定期的で開催しています。

### ユニセフ募金に協力

#### これまでの募金総額は1億2千万円

開発途上国の子どもたちの命と健康を守るユニセフ支援に取り組んでいます。2017年度は「東ティモール指定募金」を中心に、街頭募金活動「ハンド・イン・ハンド」や書き損じハガキ募金などに取り組みました。また、店舗で回収するペットボトルキャップの益金を、毎年ユニセフ募金としています。

2017年度の募金は174万円(前年-38万円)、これまでの募金総額は1億1,981万円となりました。





ママの笑顔が広がる「ハピママレッスン」。



「ここに来ると楽しいの」地域の交流の場「ふれあいサロン」。

## 第4章

# 組合員の活動

「助けあい、支えあい、ともに作る暮らしの安心」をめざして、組合員みんなで取り組みをすすめています。

## 食・暮らし・平和を守る運動を推進

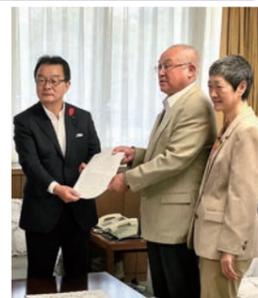
### 核兵器のない世界を求める運動



核兵器のない世界をめざし、核兵器の禁止と廃止を求める「ヒバクシャ国際署名」に諸団体や全国の生協と共同して取り組み、9万3千筆を集約（県内15万2千筆）しました。また署名と合わせて被爆の実相や平和の大切さを学ぶ「親子夏休みピースアクション」（46企画に913人参加）、「ピースアクション in ヒロシマ」（組合員6人派遣）に取り組みました。

### 子どもの医療費助成制度拡充を求める運動

諸団体と一緒に、子どもの医療費助成制度の拡充を求めて県などへの要請に取り組みました。この間の運動もあり、盛岡市では中学生まで、花巻市・北上市では高校生まで医療費助成の対象が広がりました。



### 平和憲法・9条を守る運動



「戦争をする国」への動きが進められ、その総仕上げとして平和憲法・9条を変える動きが強まっています。いわて生協は9条を守るため、現状と問題点を学び、憲法改定の国民投票の際に自分で判断できる人を広げる取り組みとして、平和憲法・9条を守る3千万署名に取り組み、2万筆を集約しました。

### 灯油運動

灯油の適正価格と福祉灯油の拡充を求めて、岩手県生協連と一しょに、岩手県と岩手県議会に要請・請願を行いました。こうした取り組みもあり、岩手県から沿岸12市町村への福祉灯油助成が7年連続で実施されました。



## 2万2千人の組合員参加で運営

より多くの組合員の参加で生協を運営しよう取り組みました。おうちで自主的に開催する「初夏のコープのつどい」は、2,419ヶ所に9,048人（前年+62人）が参加し、過去最高の参加となりました。会場で開催する「秋のコープのつどい」は5,852人（前年+169人）、「お茶会」は1,006ヶ所で開催し3,576人（前年-653人）が参加しました。また、計画づくりの場である「コープ懇談会」には1,950人（前年-339人）、「コープ総代会」には1,491人（前年+37人）が参加しました。こうした話し合いの場への組合員の参加は、のべ2万1,915人（前年-763人、97%）となり、運営や計画づくりに組合員の意見・要望をいかすことができました。



## 子育て世代の願いにそった「ハピママコープ」に4千人参加

子育て世代（特に乳幼児を持つママ）の願いにそった活動「ハピママコープ」に、2017年度はのべ4千人（前年比105%）が参加。年々参加が増え、子育て世代が生協を知る機会ともなっています。

### ハピママレッスン

子育てママ対象の企画で、2014年度スタート。盛岡市、滝沢市、八幡平市、花巻市、北上市、奥州市、一関市、宮古市の10会場で開催し、175企画に1,077組2,402人（前年+164人、107%）が参加。リフレッシュとママどうしの交流の場として好評です。



また、園児・小学生対象の長期休み企画として、「おしごとたいけん」「おかいものたいけん」も6企画開催し、100人が参加しました。

### 子育てひろば

乳幼児親子の無料の遊び場として、盛岡市、滝沢市、奥州市、一関市の6店舗で138回開催。ミニイベントの開催で1,246人（前年+18人）の親子が参加し、遊びやおしゃべりを楽しみました。

### ボラン農業小学校

「農業体験を通じて、子どもたちに作物をつくる喜びと大変さ、自然のすばらしさを体験してほしい」と、JAいわて花巻と共同で1999年から開催。2017年度で活動を終了しました。この19年間で約576人の子どもたちが、西和賀町の自然の中で貴重な体験をすることができました。



## 安心して暮らせる地域をめざして 福祉活動に3,800人参加

### コープらしの助け合いの会

「困ったときはお互いさま」の気持ちから、組合員どうし助け合う有償ボランティア組織として1992年に発足。高齢者や産前産後の方などを対象に、家事・生活援助を行っています。14市町10支部に会員1,170人（前年-30人）、活動時間2万5,057時間（前年-472時間）となりました。



「県北地域でも助け合いの活動を」という要望にこたえ、2018年度から二戸地域での活動をスタートしました。

### ふれあいサロン、ふれあいお茶っこ会

地域でつながり交流する場として「ふれあいサロン」「ふれあいお茶っこ会」を開催しています。「ふれあいサロン」は、気軽に立ち寄り一息つける場（参加費無料）として、1会場増えて盛岡地域4会場で43回開催。463人（前年+154人）が参加しました。



「ふれあいお茶っこ会」は、盛岡医療生協と共同で開催するミニデイサービス。1会場増えて盛岡地域17会場で175回開催し、2,140人（前年+150人）が参加しました。1回300円の参加費で、血圧測定やレクリエーションなど、楽しい時間を過ごしています。



北上市ツインモールプラザ（さくら野百貨店）1階にベルフ北上をオープン。



個人宅配は、サポート制度で高齢者・子育て世代の買い物を応援。

## 第5章

# くらしを支える事業

### 店舗事業

#### くらしに役立つ「地域一番のお店」に

組合員みなさんに満足いただける売り場をめざして取り組みました。特に夕方から夜間の惣菜や簡便商品、適量目の品揃えを充実させ、健康志向に対応した商品の取り扱いを増やしました。また、オープンから21年を迎えたコープ関コルザをリニューアルしました。

2018年4月27日には、北上市のツインモールプラザ（さくら野百貨店）1階にベルフ北上をオープンしました。

#### 高齢者へのお買い物支援 年々利用者が増え、2017年度は15万8千人が利用

##### 無料お買い物バス

盛岡地域6店舗への無料バスの運行を継続し、2万8千人（前年+550人、102%）と利用が増えました。

宮古市・山田町のお買い物バス、マリンコープドラと宮古駅間のシャトルバスを加えた利用者数は、のべ11万4千人（前年+2,129人、102%）となりました。

##### お買い物配達サービス

お店で購入した常温の商品をご自宅にお届けする「お買い物配達サービス」は、全店で年間利用者が4万4千人（前年+3,256人、108%）となり、利用が増えました。

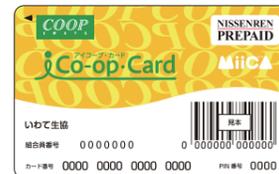
##### サービス介助士54人に

ハンディキャップを抱えた方に寄り添ったサービスや対応ができる資格「サービス介助士」の取得を、2013年度からサービス部門中心にすすめています。2017年度は全店の店長が取得し、資格者は54人（前年+13人）になりました。

ふだんの暮らしにいっそう役立つ事業、生涯をとおして組合員のくらしに役立つ事業をめざして、取り組みをすすめました。

#### 電子マネー付組合員カード「アイコープ・カード」導入

組合員の要望にこたえ、電子マネー付組合員カードを導入し、2018年4月1日から利用を開始しました。5月度までに1万38人の組合員が申し込み、「支払いが早くなって便利」「現金払いよりポイントがたくさんついて嬉しい」と好評です。



#### 「くらしと健康イキイキデー」開催

地域で安心して暮らせるために、いわて生協の事業・活動を知らせ、気軽に相談できる場として、盛岡市内3店舗で11回開催しました。健康チェックや介護・福祉の相談、事業の紹介などを行い、毎回好評です。

#### 組合員の声 1万1,581件を仕事改善に

お店の売場などで組合員から寄せられた、商品や店舗運営に関する声を「声の記録」で集約し、日常の仕事改善にいかしています。2017年度は1万1,581件の声が寄せられました。

区分	2017年度	2016年度	増減
意見・要望	4,640	4,716	-76
お問い合わせ	4,205	3,733	+472
おほめ・感謝の声	1,793	1,533	+260
商品・運営への苦情	890	982	-92
その他	53	64	-11
合計	1万1,581	1万1,028	+553

### 共同購入事業

#### 毎週の利用者は7万2千人に増加

商品案内チラシを見て注文いただいた商品を週お届けする「共同購入・個人宅配」の利用者は、7万2千人（前年+1,969人、103%）を越え、県内世帯の14.3%（前年+0.5%）の利用に広がりました。

組合員満足度の向上に向けて、食品カタログでは、コープの冷凍離乳食ブランド「きらきらステップ」の取り扱いをスタート。子育て世代から「こんな商品が待っていた」と大変好評です。また、新たに「いつでもためのコープのギフト」をはじめました。



#### 夕食宅配サービスは18市町村で1日2,100食をお届け

週5回、カロリーや塩分に配慮したお弁当をお届けする「夕食宅配サービス」（2013年事業開始）は、利用者の要望にこたえて土日祝日用の冷凍弁当や、生野菜サラダの取り扱いをスタートしました。また、奥州市江刺区や八幡平市の一部に配達エリアを拡大しました。

「人気メニューウィーク」などの取り組みで利用食数が増え、18市町で1日2,132食（前年+334食、119%）の利用に広がりました。

#### 夕食宅配サービス提供地域（一部展開地域を含む）

- ・盛岡市
- ・滝沢市
- ・八幡平市
- ・雫石町
- ・矢巾町
- ・紫波町
- ・花巻市
- ・北上市
- ・奥州市
- ・平泉町
- ・一関市
- ・宮古市
- ・大船渡市
- ・釜石市
- ・久慈市
- ・二戸市
- ・一戸町
- ・大槌町



「栄養バランスのとれたお弁当は助かる」と利用が広がっています。

#### 個人宅配サポート制度で高齢者や子育て世代のお買い物を応援

子育て中の方や高齢の方、障がいをお持ちの方などを対象に、個人宅配の配達料を優遇する「サポート値引き」制度は、2万9,262人（前年+1,469人、105%）が登録。個人宅配登録者の61%が制度を利用しています。

#### 個人宅配サポート制度の登録人数

制度	登録人数	個配利用者に占める割合
高齢者サポート値引き 70歳以上の単身、または夫婦世帯	10,001人	21%
復興支援サービス 新・被災者サポート値引き	7,033人	15%
子育てサポート値引き 母子手帳発行から満6歳までのお子さんがある方	5,256人	11%
障がい者サポート値引き ご本人またはご家族が障がい者手帳をお持ちの世帯	4,350人	9%
介護者サポート値引き ご本人またはご家族が介護認定を受けている世帯	2,621人	5%
合計	29,262人	61%

#### 日々の困りごとへのお役立ち

日常の配達業務を通し、組合員のちょっとした困りごとを生協の事業・活動につなぐ取り組みを、盛岡北・盛岡南センターですすめています。掃除、草取り、雪かき、ごみ捨てなどの要望41件（前年+23件）を事業・活動につなぐ、利用につながったり感謝される事例もありました。

#### 生協灯油は総額2,800万円を還元

2017年度は利用者拡大が計画を上回り、配達量は3万2,765Kℓ（前年+1,750Kℓ、109%）と、2年連続で3万Kℓを超えました。これは県内シェアの約1割にあたります。

石油産油国の政情不安や世界的な寒波などの影響で原油価格が高騰し、暫定価格を変更せざるを得ませんでしたが、2・3月度の利用について1ℓ1.5円の還元を実現し、組合員の家計に貢献することができました。



あい長橋町の内覧会では「ここにお世話になりたい」との感想も。



コープ共済イメージキャラクター コーすけは子どもたちにも大人気。

## 共済事業

### 9千件の加入で契約件数10万9千件に

コープ共済は、全国の生協の組合員の「助け合い」の制度として、手ごろな掛け金で充実の保障を実現した保障のコープ商品です。

2017年度、コープ共済の新規加入は9,335件となり、契約件数は10万9,616件に広がりました（前年+1,925件、102%）。要望にそって高齢者向けの新コース「プラチナ85」新設などの商品改定で、さらに制度が充実。店舗では、コープ一関コルザに3店目の独立型共済カウンターを設置し、気軽に相談しやすい環境をつくりました。

### 8億5千万円の共済金をお支払い

コープ共済は、共済金のお支払いに価値を置き、請求モレが発生しないように共同購入を通じて加入者に声かけを行っています。2017年度の共済金のお支払いは1万3,061件、8億5,857万円（前年-8,293万円、91%）となり、「組合員のくらしを支える共済」の役割を果たしています。

## 葬祭事業

### 9ホールで1,272件の葬儀を施行

いわて生協の葬祭事業は、「人生最後の儀式だからこそ、自分たちがつくる生協で」「納得できる適性価格で」という組合員の願いから生まれ、1993年から事業を行っています。2017年度は9つのセリオホール（葬祭会館）で1,272件（前年+102件、109%）を施行しました。



### ランドセルカバーを新入学児8千人に贈呈

2015年度から、子どもたちの交通事故をなくしたいと、「コーすけ入りランドセルカバー」を希望する県内の小学校に贈呈する活動を行っています。2017年度は250の小学校8,126人の新入学児童へ贈呈。「黄色いカバーが目立つのでとてもいい」と感謝されています。



### 「セリオ積立」1万1千件に

いつか訪れる“もしもの時”に備えて、計画的に積立を行う「セリオ積立」も、組合員の要望から生まれた制度です。制度の認知度を高めようと地域訪問活動などに取り組み、総件数は1万1,349件（前年+597件、106%）になりました。また、終活への関心の高まりにこたえ、「終活フェア」「終活フェア&葬祭展示会」、組合員活動での学習会などを開催し、700人が参加。「また開催してほしい」「とても勉強になった」などと好評でした。



## 介護・福祉事業

### サービス提供人数は6千人

2017年度の総利用人数は6,021人（前年-94人、98%）と、訪問介護事業は利用が増えましたが、居宅介護支援（ケアプラン作成）と福祉用具レンタルは利用が減りました。

介護・福祉相談は72件（前年-56件、56%）となりました。また、地域福祉委員会と共催で「くらしと健康いきいきデー」を開催しました。



新しい事務所では、福祉用具展示コーナーも充実。

## 住まいと暮らしのサービス事業

### 4万1千人がサービスを利用

住まいと暮らしのサービスセンターは、地元の専門業者や施設と提携し、さまざまなサービスを組合員に提供しています。2017年度は新たに8つのサービスを始めました。しかし、利用の多かった入浴施設の提携解除が影響し、利用者はのべ4万1,054人（前年-7,496人、85%）と減少しました。

### 小規模多機能型居宅介護事業を開始

介護事業への要望・ニーズが高まる中、既存の3事業（居宅介護支援、訪問介護、福祉用具レンタル）だけではニーズに対応しきれないことから、新たに居住系事業をスタートしました。2018年3月、24時間・365日の在宅支援を行う「小規模多機能型居宅介護 あい長橋町」を開所。4日間の内覧会には600人以上が訪れ、組合員や地域から期待の声が多く寄せられました。



「訪問」「通い」「泊まり」の3つを組み合わせた在宅介護サービスを実施。

## 電気小売事業

### 2018年6月から電気小売事業「COCOENE」を開始

原子力発電に依存しないくらしを広げるために、再生可能エネルギーを積極的に取り入れた電気の小売事業を開始します。

コープのでんき「COCOENE」は、再生可能エネルギー比率75%でみらいにやさしい「ソフトでんき」、電気料金と再生可能エネルギー比率の両方に配慮し、くらしにやさしい「コスパでんき」の2種類から選ぶことができます。

### 南昌荘「紅葉のライトアップ」が好評

1885年（明治18年）建造の南昌荘は、保存を望む多くの声にこたえ、いわて生協が保有し、維持管理と公開を行っています。盛岡市の保護庭園、保護建造物であり、庭園は国の登録記念物にも認定されています。

2017年度は、秋のイベント「紅葉ライトアップ」が過去最高の入園者数となり、年間の入園者も1万3千人（前年比115%）となりました。

